



みらいつうしん

2月号

2025年2月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子

春が早く訪れますように

「鬼は外、福は内」日本では昔から節分の日には、邪気を払い福を呼び込む「追儺（ついな）」という儀式が行われていました。本来節分は年に4回あり、立春、立夏、立秋、立冬の季節の変わり目（前日）を指しますが、特に2月4日の立春は、昔は、今でいうお正月にあたり、福を招きたいという人々の願いから、2月3日の節分には、家の入口に柀の枝やイワシの頭を飾り、豆まきを行い、邪気を払い無病息災を願う風習として現在でも行っているとのこと。最近では、関西地方から伝わる恵方巻を食べることも全国的に行われるようになり、縁起の良い方向を向いて巻き寿司を食べると、その1年は、健康で幸せが訪れると信じられています（今年は西南西やや西だそうです）。

本園でも、節分の行事はとても大切にしており、幼児クラスは、節分の話丁寧な伝え、個性豊かなお面を作り、心の中に潜んでいる、泣き虫鬼やなまけ虫鬼、いじわる虫鬼を退治できるよう、また世の中が安全で幸福が訪れるよう、楽しい豆まきを計画しています。乳児クラスも、恐怖感が生まれないよう、豆まきを行い、みんなにも幸せが来ることを伝えていきたいと考えています。

皆様にも災害がなく幸せがたくさん訪れますように、心からお祈りいたします。

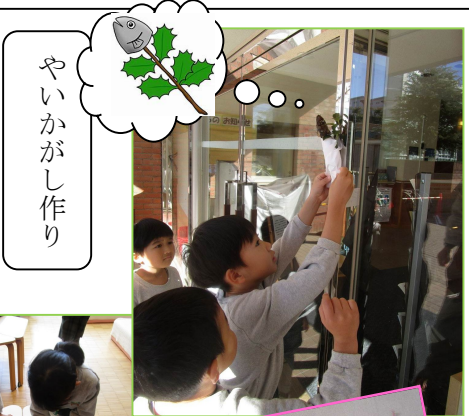
さて、子ども達の様子ですが、友達同士の対話が学年問わず増え、遊びも一人よりも友達との関わりを楽しむものに変化してきました。これは、遊びが膨らみ、学びが多くなった証です。その姿は、時に逞しささえ感じます。また、友達への思いやりや尊敬、あこがれも多く芽生え、特ににじ組は、園生活を心置きなく楽しんでいる様子が見られます。園で過ごす期間は、残り少なくなってきましたので、十分園生活をエンジョイして欲しいです。

先日、小学校就学前の新城小学校の体験交流会に参加し、椅子の座り方、ランドセルの背負い方、また、小学校に入学した時の思いなどが含まれた劇を見せていただいたことから、より小学校へ就学する意欲が芽生えたようです。小学校の話題も増え、どことなくしっかりしなくてはという自覚も感じられるようになりました。今も2月に行われる『みらいランド』（1日目は乳児組さんとほし組さんを招いてお店屋さんごっこ、2日目はにじ組さんとそら組さんのお買い物ごっこ体験）に向けて「どんなお店さんがいいかな？」「これ喜ぶかな？」と考えながら、一生懸命物作りを行っています。お店屋さん作りは、そら組さんも行いますが、「～をしたい」という思いを作ることで表現したり異年齢の子ども達が、触れ合いながらやり取りをしたりすることは、成長していく上で、大きな学びに繋がります。大いに楽しんで欲しいです。これからも、子ども達の成長を温かく見守りながら、教育・保育に力を注いでいきたいと思ひます。

1年生との交流（小学校体験）



イワシ
くさいね～



やいかがし作り

